

## 育児と高齢者介護を支援する性別役割分業を超えた社会的システムの形成（第6報）無認可保育園による育児支援

○渡邊廣二\* 浅田幸子\*\* 磯部美津子\*<sup>3</sup> 榎並英子\*\* 大倉聖子\*<sup>4</sup> 佐渡君江\*<sup>5</sup>

永原朗子\*<sup>6</sup> 原田寛子\*<sup>5</sup> 山本眞一\*<sup>7</sup> 吉見康江\*<sup>8</sup>

(\*鳴門教育大, \*\*ノートルダム清心女子大, \*<sup>3</sup>島根県立女子短大, \*<sup>4</sup>中国短大, \*<sup>5</sup>四国大短大, \*<sup>6</sup>山口大, \*<sup>7</sup>島根大, \*<sup>8</sup>就実短大)

**目的** 行政による社会的支援が立ち後れるなかで、無認可保育園は独自の役割を果たしてきた。無認可保育園の利用実態を見ながら、男女の就労と育児の両立を支援するシステムの形成を展望する。

**方法** 第3報に同じ。

**結果** 無認可保育園の利無者はフルタイムで働き、勤務時間は長く、残業をする人が多い。日曜祝日出勤者も多い。無認可保育園を利用する理由は、仕事の都合に合わせてもらえること、夜遅くまで預かってもらえることなどであり、園を知ったきっかけは、知人、友人からの情報が多い。就労と育児の両立に必要な支援としては、延長保育や病児保育などの多様な保育要求が強く、ファミリーサポートセンターに対する期待も大きい。夫の育児協力は少ないが、急に仕事が遅くなった時や子供が病気の時の対応に見られるように、夫の協力は相対的に高く、家族内性別役割分業を超える萌芽を見ることができる。